

第3回 野鳥公園整備に関する検討委員会

野鳥公園前面海域に 導入する機能について



平成26年2月21日

エコパークゾーンにおける野鳥公園



【第2回検討委員会】

生物生息環境の創出

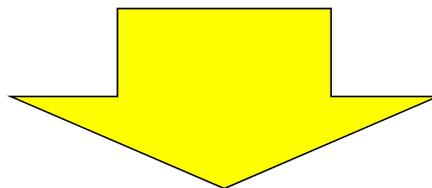
- ・覆砂や藻場の造成等を検討し、多様な生物の生息環境を創出する

自然の成長を通じた環境学習

- ・生物調査や観察会等を通して、生物とふれ合う体験学習を行う
- ・新たに創出した自然環境が成長していく過程や海域の生態系を学習する

鳥類の休息場

- ・干潟を主要な生息場として利用している鳥類の休息場を設ける



浅場

アマモ場

石組み

海の自然を学ぶゾーンの機能

浅場

- ◆覆砂により水・底質を改善する。
- ◆海底面を高くすることで、貧酸素水塊が発生した際に底生生物への影響が軽減できる。

アマモ場

- ◆水・底質の改善や多様な生物の生息環境創出につながる。
- ◆光合成による二酸化炭素の吸収や海中への酸素供給を行う。
- ◆市民と共働でアマモ場を作っていくことができる。

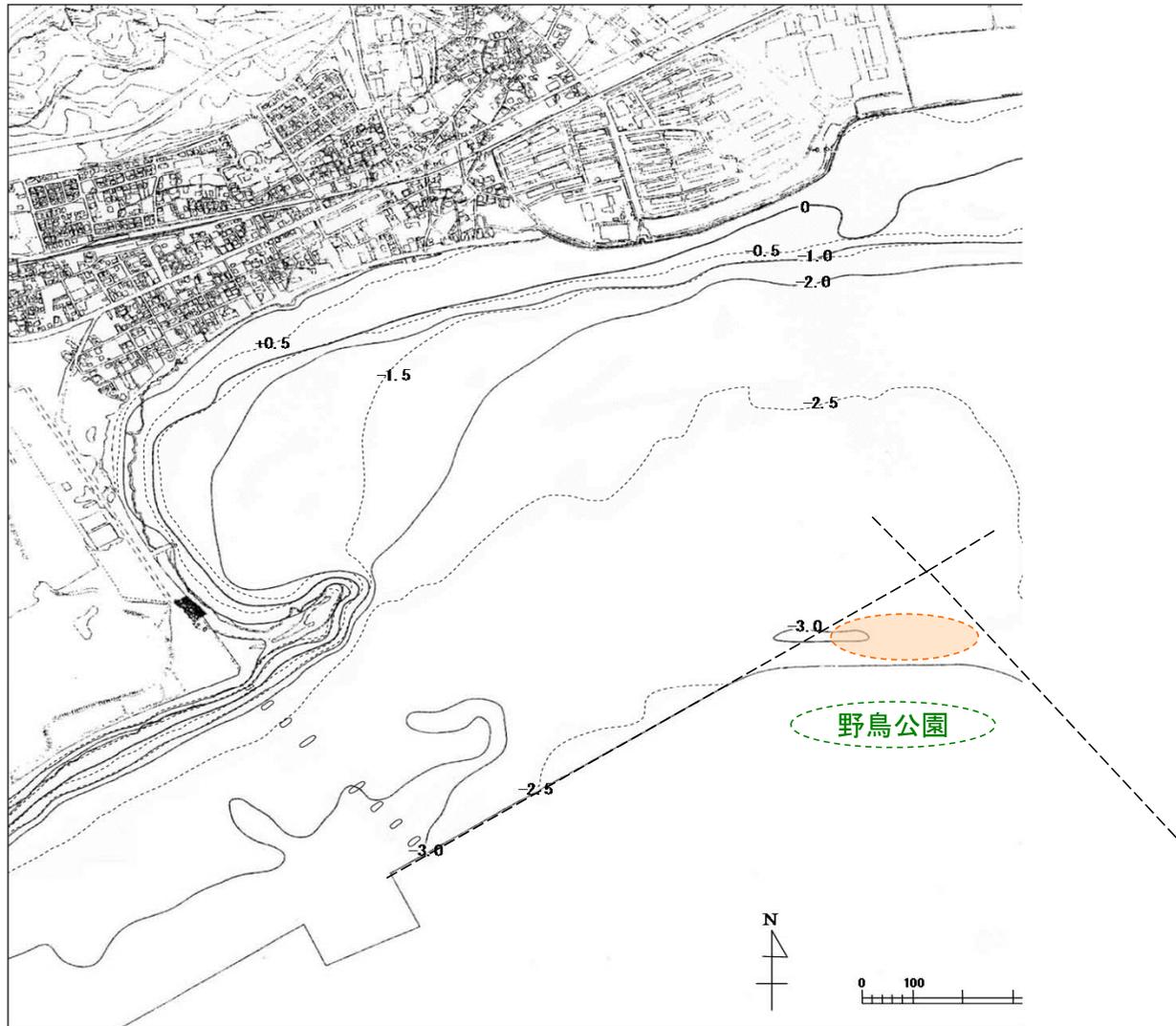
石組み

- ◆大潮満潮時でも干出する鳥類の休息場とする。
- ◆形状の工夫により、鳥類の休息場に加え採餌場としての機能を併せ持つことも期待される。

検討案

範囲

◆流況を阻害せず，周辺海域の流れへの影響を極力抑えるため，アイランドシティ護岸法線上の交点内で検討



浅場の範囲

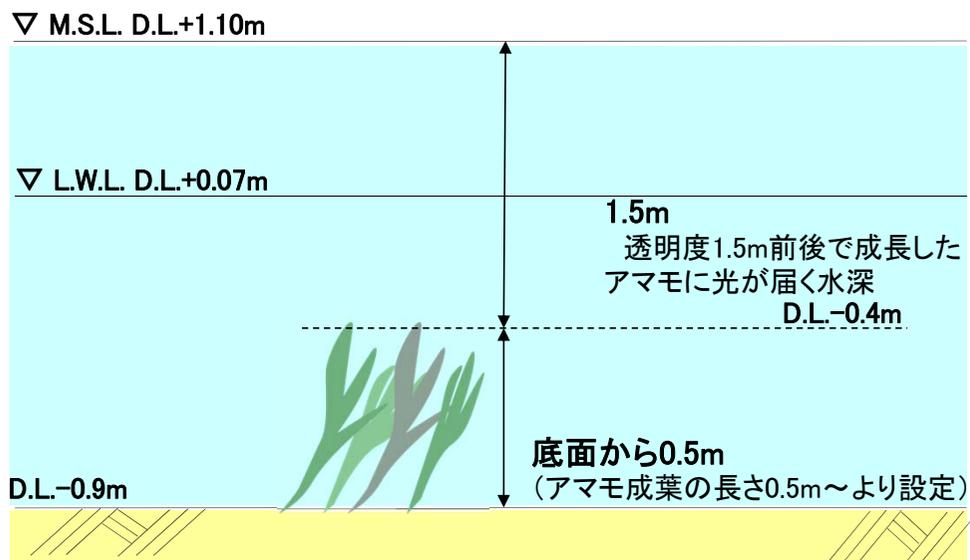
検討案

水深

◆浅場としての機能とアマモ場としての機能を持たせる

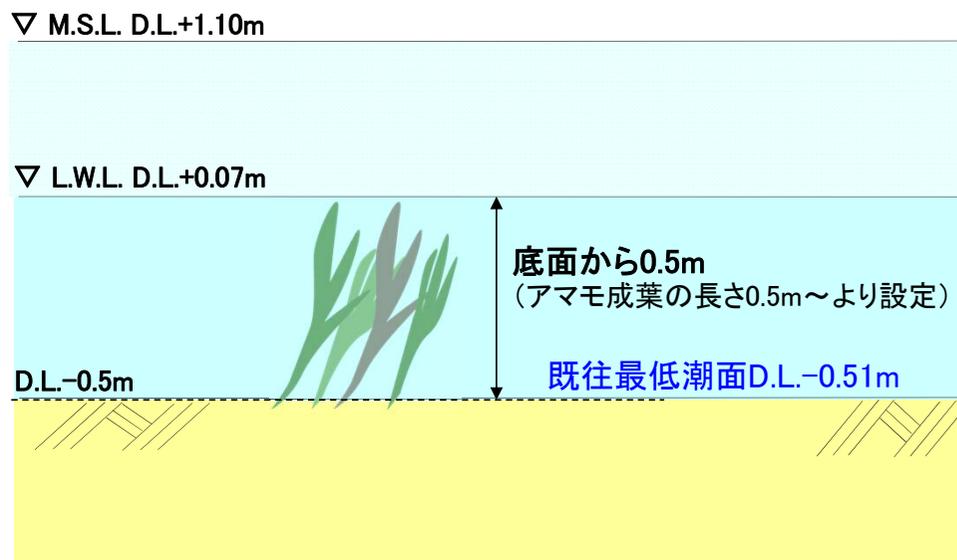
①最深水深

平均水面 (D.L.+1.10m) において、透明度が下がる時期 (透明度1.5m前後) でも、アマモに光が届く水深である D.L.-0.9m で検討。



②最浅水深

アマモ場は、低潮時に干出しない場所とすることから、既往最低潮面D.L.-0.51m (昭和59年2月18日観測) より D.L.-0.5m で検討。



水深 **D.L.-0.9m ~ D.L.-0.5m** 程度

検討案

形状イメージ図

